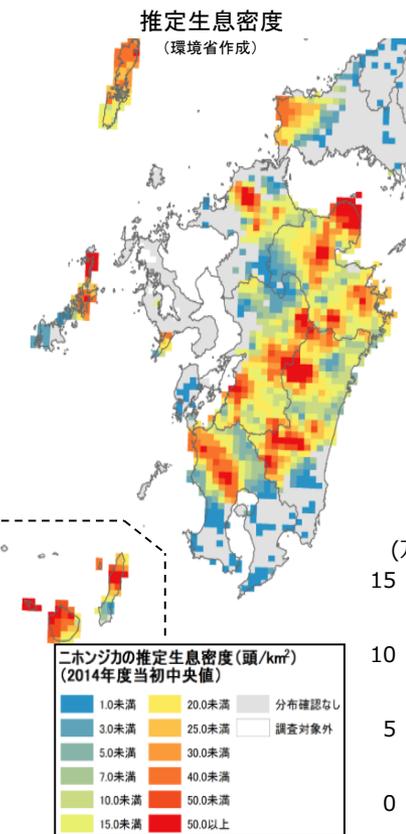


## 九州森林管理局におけるシカ被害への対応

- シカの増加、生息域の拡大により森林の被害が深刻化。「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」（2013年、環境省・農林水産省）ではシカの生息数を10年後までに半減させることを目標としているが、捕獲の担い手である狩猟者は著しく減少・高齢化。
- 環境省や県・市町村等の関係機関との連携を図りながら戦略的な対応を進めるとともに、くくり罠の無償貸与等による地域と一体となった森林被害対策に取り組む。

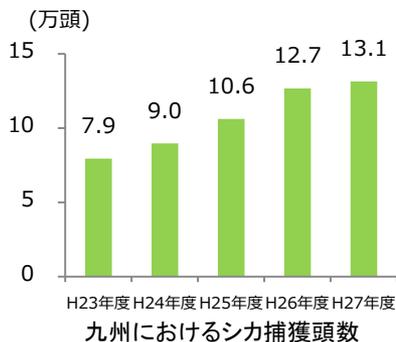
### ○ ニホンジカによる森林被害



自動撮影カメラで撮影されたシカ



シカ被害により下層植生が消失し、表土が流出



※環境省生息状況等緊急調査事業による推定生息頭数は約43万頭(平成24年度末)

- 地元市町村・猟友会・林業事業者との「シカ被害対策協定」により、地域全体での被害対策を実施(平成29年度までに27協定を締結)。

#### 協定の主な内容

- 入林手続きの簡略化
- 森林管理署によるわなの無償貸与



- 「九州シカ広域一斉捕獲」として、九州5県(福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島)と連携し、春期8日間、秋期15日間に集中的に捕獲。期間中は国有林の入林禁止区域の撤廃や林道ゲートの開放等を実施。



- 屋久島では、環境省、県・市町村、学識経験者等によるワーキンググループを設置し、関係機関が連携して戦略的にシカ被害対策を推進。



ニホンジカの生息状況(糞塊)調査

# 九州森林管理局における保護林内のシカ被害対策

## 植生保護柵の設置状況

### H29年度まで

・7つの保護林内に、全長約53.0kmの柵を設置済み。

- 森林生態系保護地域 約5.4km (祖母傾大崩周辺)
- 生物群集保護林 約32.6km (九州中央山地、白髪岳、霧島)
- 希少個体群保護林 約15.0km (市房ゴイシツバメシジミ、犬ヶ岳、雁俣山)



祖母傾大崩山周辺森林生態系保護地域における植生保護柵の様子  
(奥)繁茂した下層植生、(手前)シカ食害により衰退した下層植生

### H30年度設置計画

・原則、H29年度モニタリング調査箇所から、6つの保護林内に設置予定。

- 生物群集保護林 (九州中央山地、鬼の目山)
- 希少個体群保護林 (英彦山・鶯、内大臣ゴイシツバメシジミ、冷水サツマシダ、ヒノタニシダ)

## 設置における考え方

- ・希少種の生息・生育状況
- ・シカ被害レベル
- ・下層植生の回復可能性
- ・保護林の3区分
- ・地域振興等の社会的な要素 等



今後も左記項目を考慮し、シカ被害対策に取り組む方針

# 平成29年度保護林モニタリング調査箇所におけるシカ被害状況

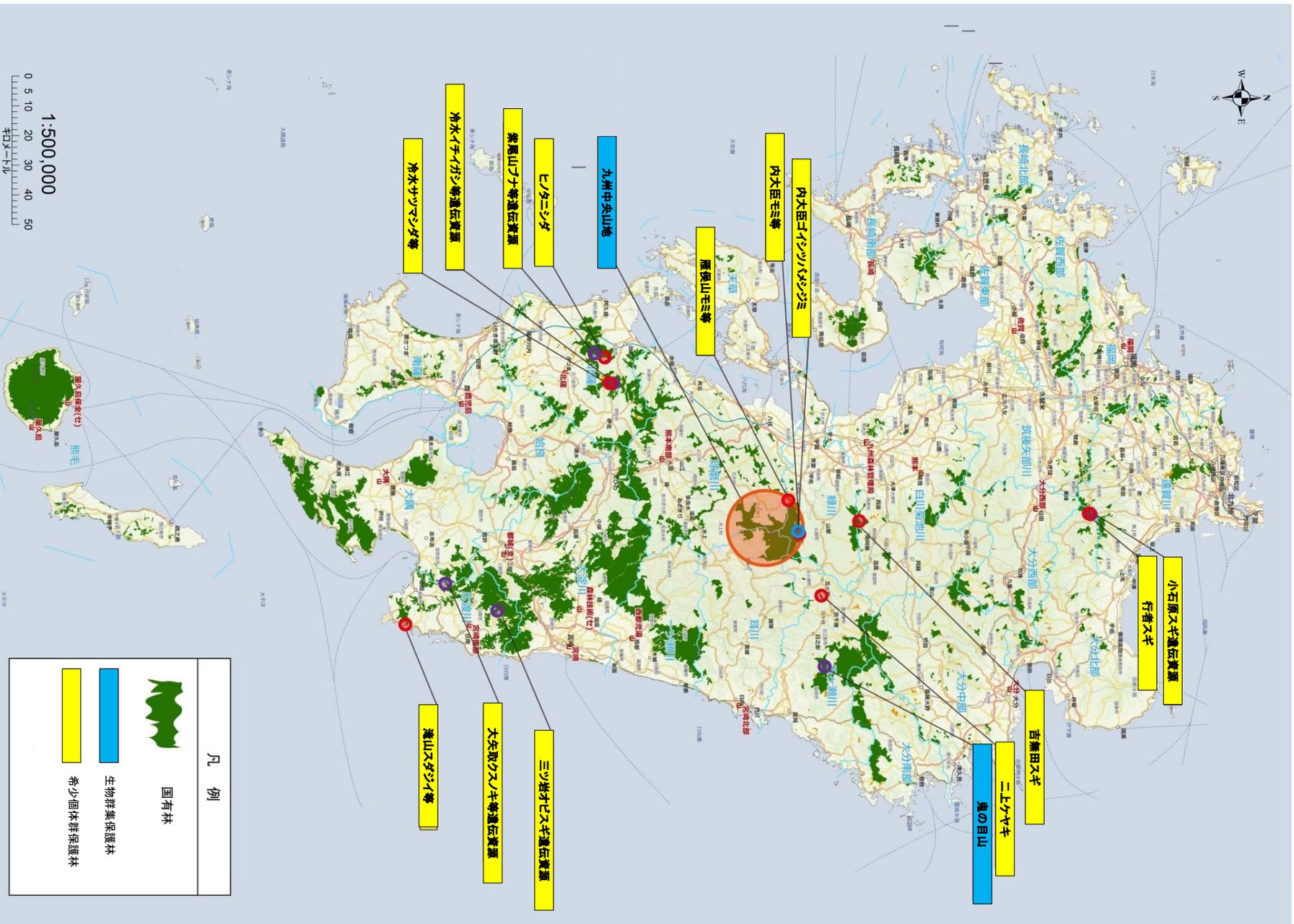
保護林名	地域	プロットNo.	被害レベル		増減
			平成24年度	平成29年度	
鳥帽子岳		21215	1	2	↗
			3	4	↗
			1	4	↗
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
京丈山		23	2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
上福根山		21204	0	0	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
白岩山		21424	3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
向坂山		21405	3	3	→
			3	3	→
五ヶ瀬又 キー場		51	3	4	↗
			3	3	→
木浦林道		21406	3	3	→
			3	3	→
高岳		13	4	3	↖
			3	3	→
椎矢林道		21429	3	3	→
			3	3	→
高岳～国 見岳		25	3	4	↗
			3	3	→
国見岳		26	3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
水上		21220	3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
天主山		15	3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
			3	3	→
白鳥山		21209	2	4	↗
			2	4	↗
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
			2	3	↘
目丸山		20	3	4	↗
			3	4	↗
			3	4	↗
木浦谷		21	3	4	↗
			3	4	↗
		21407	3		
			3		
			3		
			3		
		21408	3		
			3		

九州中央山地生物群集保護林

気象害によりアプローチ不可

# 平成29年度保護林モニタリング調査箇所におけるシカ被害状況

保護林名	プロットNo.	被害レベル		増減
		平成24年度	平成29年度	
鬼の目山生物群集保護林	33			↗
	34			↗
	35			↗
	36			↗
	37			↕
	38			↗
	55			↗
小石原スギ遺伝資源希少個体群保護林	31			↗
	32			→
	39			↗
	40			↗
雁俣山モミ等希少個体群保護林	45			→
	46			→
	47			→
	48			↘
吉無田スギ希少個体群保護林	41			↗
	42			↗
内大臣モミ等希少個体群保護林	18			→
	19			→
	27			↗
内大臣ゴイソツバメシジミ希少個体群保護林	28			↗
	49			↗
	50			↗
ニエケヤキ希少個体群保護林	3101			→
	3102			→
	33201			→
大矢取クスノキ等遺伝資源希少個体群保護林	33202			→
	43001			→
滝山スダジイ等希少個体群保護林	43002			→
	33601			↗
冷水イチイガシ等遺伝資源希少個体群保護林	33602			↗
	43201			↗
冷水サツマシダ等希少個体群保護林	43202			↗
	33701			↗
紫尾山ブナ等遺伝資源希少個体群保護林	33702			↗
	43301			↗
ヒナシダ希少個体群保護林	43302			↗



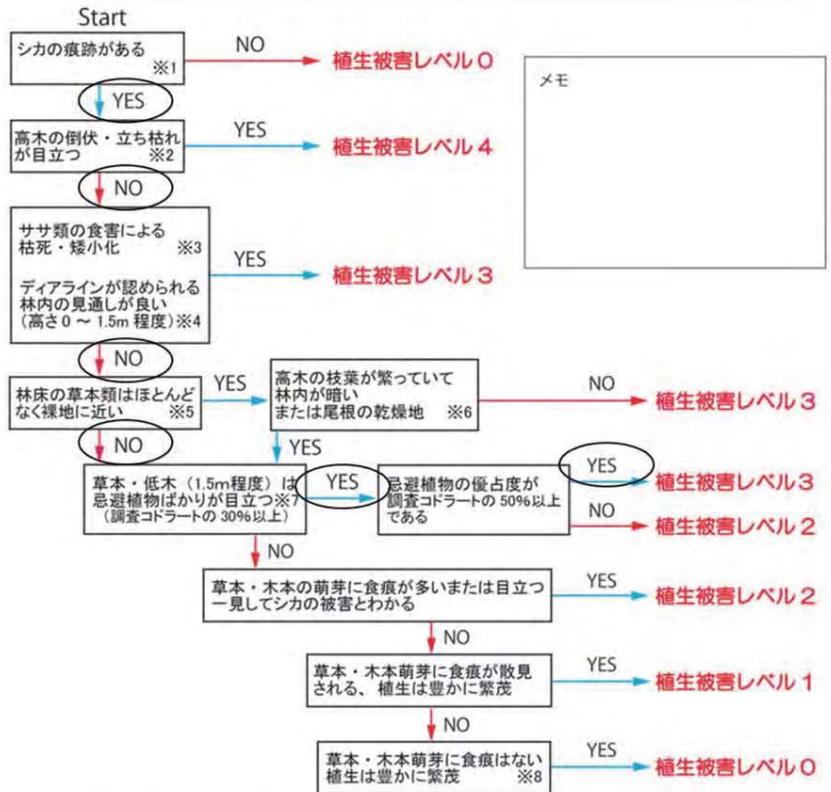
# (参考) 保護林モニタリング調査におけるシカ被害レベルの概要について

シカ被害レベル判定のための  
簡易版チェックシート (改訂版)

調査日 2017/10/18 調査者名 中林 緑

調査地点名 荒尾No.1 標高 559 m GPS No. 213~220 写真 No. 1~8

植生タイプ: 雑林  常緑広葉樹林  落葉広葉樹林  針葉樹林   
 地形: 尾根上  斜面  谷   
 微地形: 平地  傾斜地  凹地  凸地



- ※1 シカの目撃、声、糞、角こすり、食痕などを探してみる。足跡やシカ道はイノシシとの区別がむずかしいので注意。
- ※2 高木は森の樹冠を形成する樹木。シカにより林床の植物が減少すると、乾燥に弱いブナなどが影響を受ける。
- ※3 ササ類はシカの嗜好植物。シカの高密度地域では、スズタケなどがすでに消失している場所も多い。本来ササ類がない場合は NO へ。
- ※4 シカの口がとどく範囲である高さ 1.5m 程度までの植物がシカから食べられるので、林内の見通しが良くなる。
- ※5 シカの食害が多くなると、シカがそれまで食べなかったものまで食べるので林床植物が減少する。
- ※6 林内が暗かったり、乾燥した場所では、もともと林床に草本類が少ない場所も多い。
- ※7 シカの食害が多くなると、シカの嫌いな植物だけが生き残るため多様性が失われる。数種類の忌避植物だけになってしまう。
- ※8 発達した人工林では林床植生が本来ない場合がある。この項目が NO のときは調査コードラートの周辺にシカによる根刈り、樹皮剥ぎ等の痕跡を探してみる。痕跡がある場合は植生被害レベル 3 と判断する。

被害レベル区分	被害レベル段階内容	森林植生の状況	特徴的な指標			
			林冠の状況	林内の状況	忌避植物の割合	備考
被害レベル 0	シカによる被害がほとんどない段階	森林の階層構造、種組成ともに自然状態。	林冠閉鎖	低木層、草本層にほとんど食痕が見られない。		
被害レベル 1	シカによる被害が軽微で、森林の構造にほとんど変化はない段階	森林の階層構造、種組成ともに自然状態であるが、構成種に食痕が頻繁に認められる。	林冠閉鎖	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成への影響は少ない。	小	一見被害がなさそうに見えるが、調査を行うと、被害の痕跡が見られる。
被害レベル 2	シカによる被害により森林の内部構造に変化が生じている段階	森林の階層構造 (特に低木層・草本層) に欠落が生じ始める。また、種組成に忌避植物の侵入・優占が始め、自然状態の種組成に変化が生じ始めている。	林冠閉鎖	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に変化が生じる。		低木層、草本層の種数の減少や、特定の種 (忌避植物ほか) の優占等が見られる。
被害レベル 3	シカによる被害により森林の内部構造が破壊された段階	森林の階層構造 (特に低木層・草本層) に欠落が生じ始める。また、低木層、草本層に忌避植物が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となる。	林冠閉鎖	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に欠落が生じる。		林床にスズタケの優占する森林では、枯死の存在で比較的簡単にわかる。
被害レベル 4	シカによる被害により森林が破壊された段階	森林の低木層・草本層に加え、亜高木層・高木層当の林冠構成種の一部が枯死し、森林としての階層構造に欠落が生じる。また、低木層、草本層に忌避植物が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となる。	林冠に (シカによる) ギャップが生じる	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に欠落が生じる。	大	高木層の枯死及び消失が散見される。また、被害の酷いところでは、土柱等の表土の流亡の兆候が見られる。

表:シカ被害レベル区分とその概要